

中学校 社会科のしおり

2019年度 **3** 学期号



ウズベキスタン 綿花畑での収穫のようす (取材レポートは裏表紙)



新学習指導要領で**社会科**はこう変わる **地理**

注目
記事

地理学習トラの巻②① **テスト問題のつくり方**

教授用資料

帝国書院

ウズベキスタンの写真は、
[指導者専用サイト]
プレミアム写真館
でご覧いただけます!

ウズベキスタンの暮らし

帝国書院取材班



砂漠の中での綿花栽培

ガイド曰く「世界で最も海から離れた国」であるウズベキスタンは、日本からおよそ6000km離れた中央アジアの内陸国。国土の6割を砂漠・ステップが占め、西部ホラズム州に位置するここ世界遺産都市ヒバ(ヒヴェア)も砂漠気候区に属する。10月初旬にもかかわらず陽の光がジリジリと照りつけ、周辺の砂漠の影響が少し空気が埃っぽい。一方、町から少し車を走らせればあたり一面に綿花畑が広がる(表紙写真)。アラル海に向かって流れるアムダリア川からひかれた灌漑設備が整っているからだ。

招かれて畑の中に足を踏み入ると、収穫方法を身振り手振りで教えてくれた。ふわふわのコットン(綿花)の実の部分にあたり、付け根(へた)を優しくつかんで手首をくると回せば軽やかに収穫できた。ウズベキスタンは生産量が世界第6位、輸出量が第9位の綿花大国であるが、生産の中心は中規模の農業法人が担う。この畑では十数人ほどが全て手摘みで収穫していたが、経営者家族だけでなく、近所の人や学校で授業を終えたあとの先生などにも手伝ってもらっていたのだという。

綿花畑に向かう途中ではメロンの露店をよく見かけた(写真①)。ホラズム地方のメロン栽培は、14世紀の旅行家イブン=バトゥータもメロンを堪能したといわれるほど長い伝統を誇る。一玉2kg以上もある長く大きなものだが、それでいてしっかりとした甘みと豊富な果汁をたたえており、ひと口食べるととても幸せな気分になれる。

豊かな食文化と観光地としてのヒバ

ウズベキスタンの主食といえば、小麦粉をこねてかまどの中で平焼きにしたナンである(写真②)。地方によって大きく形が異なり、ホラズム地方のナンは人の顔をすっぽり覆ってしまえるほど大きく薄いのが特徴である(写真③右下)。これに、野菜や肉などをつかった主菜を組み合わせて食べる。一般家庭にお邪魔してふるまっていたホラズム地方の伝統料理シヴィトシもその一つで、香草を練り込んだ麺をお好みでヨーグルトに和え、トマト、じゃがいも、羊肉(ラム)を炒めた具を載せて食べる(写真③中央)。乾燥した地域に住むイスラム教徒の食文化の典型である。

ヒバのまちなかはイチャンカラと呼ばれる城壁都市。日干しレンガの歴史的建造物に囲まれ、さも中近世にタイムスリップしたかのような感覚に陥る。この日は結婚式が行われており、新郎新婦と家族・友人が城内の観光スポットを巡り、幸せそうな表情で結婚写真を撮影していた。(写真④)。(写真：帝国書院 2018年10月撮影)



①



②



③



④